

「地域の魅力をたくさんの人へ伝えたい」

山路 隼之介（29 歳） 新規参入
（久万高原町）



1 就農の動機・理由

栃木県で農業とは関係のない会社で働いていたが、漠然と農業をやってみたいと考えていたところ、いちごを栽培する農家と知り合った。休日に手伝いに行く中で農作業の楽しさを実感し、就農を決意した。

野菜を栽培したいという希望で就農フェアに参加し、久万高原町の研修制度を知った。その後2年間の研修を終え久万高原町で就農した。

養液土耕システム 1 式
細霧冷房装置 1 式
刈払機 1 台
乗用型トラクター 1 台
管理機 1 台
運搬車 1 台

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和3年)	現在の経営 (令和5年)	将来の経営 (令和8年)
労働力	男1人(本人)	男1人(本人)	男1人(本人)
経営耕地	水田 20a	水田 20a	水田 20a
経営内容	夏秋トマト 16.5a (雨除け施設) さつまいも 3.5a	夏秋トマト 16.5a (雨除け施設) さつまいも 3.5a	夏秋トマト 16.5a (雨除け施設) さつまいも 3.5a

○農業用施設

ビニールハウス 10棟
農業用倉庫 3棟

○主要農業機械

軽トラック 1台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 大阪府岸和田市
職歴 環境調査会社勤務
就農研修歴

久万農業公園研修センター

(R 元. 4. 1～R3. 3. 31)

就農年月 令和3年4月

(2) 就農時の思い

やりたかった農業をやっと始められたという気持ちが大きかった。就農時の初期投資にかかる経費などは町の補助があり、とてもお世話になった。久万高原町のトマト産地を残していけるような農家になることを目標に取り組んだ。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

研修では単独でハウスを担当させていただき、トマトの栽培を一通り経験した。

担当したハウスは研修センターから離れていたが、研修センターを始めとした農業関係機関（町・JA・県等）の巡回の際に、課題解決の方法や具体的な作業内容を相談できた。

また、自分でも、栽培に関して、本や研究資料からより高度な知識を得るとともに、ほ場条件による栽培方法の違いについては、就農予定地区の先輩農家にアドバイスをもらっていた。

(2) 資金の準備

既存のハウスを譲り受けたため、ビニールハウスを建設する必要はなかった。細霧冷房装置等の機械を、県の補助事業と久万農業公園のリース事業を活用して導入した。

(3) 農地・住宅の確保

町外からの新規参入のため、一から探す必要があったが、町や久万農業公社の方に支援してもらった。住居がなかなか決まらず苦労もあったが、地区の方からの紹介もあり確保できた。

(4) その他苦労したこと

就農1年目は単価が安かったうえに、トマトの病気が多発し不安が大きかった。土壌病害がひどく、対処に時間にとられて他の作業が遅れ気味になった。一人でやっているのでも、体調不良でも管理を休めないということもあり、体が慣れるのに苦労した。

5 農業経営の特徴

トマトでは細かい霧状の水を噴霧し、気温を下げる細霧冷房装置で、ハウス内温度を調整している。その他、葉面散布のタイミングなど、生育に合わせて管理を行っている。

また、町内外の親子に対しさつまいもの収穫体験ツアーを実施している。

6 これからの夢

トマト部会の高齢化が進み生産者も減少している中で、久万高原ブランドを残すために新規就農者が参入しやすい地域

づくりを目指したいと考えている。

また、旅行業の資格を活かして、さつまいも収穫体験や農泊ツアーなどを実施し、久万高原町の魅力を伝えていきたい。

7 成功したキーポイント

必要経費を計算し、それに足る収量を逆算することで目標値を定めた。それに基づき本数や作型を決定し、無理なく安定した収入が得られるよう管理している。

8 就農を目指す方へのアドバイス

農業を始めるにあたって、どこで何を栽培するかが重要になります。自分がどんな農業をしたいかによって、調べたり現地の農家に話を聞いたりするなど、十分な準備をしてから始めると良いと思います。

○ 指導機関からのひとこと

ご自身の得意分野を活かして産地や地域の発展に取り組まれています。これからも地域農業をリードする担い手として活躍されることを期待しています！

執筆機関

中予地方局農業振興課地域農業育成室
久万高原農業指導班
電話番号 0892-21-0314



トマトの管理作業